【令和7年度分】

保育者の自己評価及び保護者からの園評価を踏まえた園全体の評価

社会福祉法人　松真福祉会
まきば保育園

① 日々の保育活動について

保護者の方の評価としておおむね「子どもの興味や関心を大切にしている」「心身の発達に役立っている」との意見を多くいただけています。保育者の自己評価では、計画性のある活動については行えている反面、状況に応じての活動案の変更や、主体的に子どもが関われるような配慮が難しいという評価もあります。「子どもの主体性」については今後も、勉強会や事例検討などを重ねていき、子どもの興味や関心、思いを尊重しながら、日々の保育活動をすすめていけるようにしていきたいと思います。

② 安心安全な保育環境について

保護者の方の評価としておおむね「安心した園生活を送れている」、またケガや体調不良などの場合にも「適切に対応してくれている」との意見もいただけています。保育者の自己評価としても保育の中での安全の確保、事故防止のための見守り、災害時等のリスク管理の意識は高く保てているという結果でしたが、保育者間の役割分担について具体的なケースを想定して確認する必要性があると評価しています。昨今の災害や犯罪などのリスク管理については「これで完璧」ということはなく、毎年あらゆるリスクを想定しながら安全管理体制をアップデートしていけるよう職員間でも話し合いを重ねていきたいと思います。

③ 保育環境の整備・レイアウトについて

保護者の方の評価としては「整理整頓ができている」という意見をいただけています。保育者の自己評価では日々のルーティーン清掃についてはできているものの、限られた業務時間の中で気になる部分の清掃に時間をかけることが難しいという評価もありました。また新しい玩具や絵本の選定についても検討する時間があまりとれないという評価がありました。普段手の回らない部分の清掃時間を計画的に確保し、各クラスの環境設定について、定期的に職員会議等で話題を出す中で、子どもたちにあった玩具や絵本について考えられる時間も確保していきたいと思います。

④ 子どもの気持ちを尊重した保育について

保護者の方の評価としては「子どもの気持ちを尊重してくれていると感じる」という意見が多い中で、「あまり対応してくれない」という意見もいただきました。保育者の自己評価では、子どもの思いや意見をくみ取みとりながらも、保育者が決めた活動をすすめていくことが多いという評価もありました。保育園という集団の中で、子ども同士の関わりも大切にしながら、保育者もそれぞれの子どもたちの気持ちをしっかりと受け止めた上で関わっていくことを意識していきたいと思います。「気持ちを受け止めてもらえた」と子ども自身が思えることが園生活の安心感にもつながるので、「こどもの人権」について今後も理解も深めていけるようにしていきます。

⑤ 保護者の方との連携などについて

保護者の方の評価としては、園での様子や活動については「十分伝わっている」、職員と話したり相談も「十分できている」との意見が多い中で、園の様子が「あまり伝わらない」「相談ができない」という意見もいただきました。保育者の自己評価では保護者の方への言葉遣い、相談内容などの共有などについては適切に対応できており、保護者の方からの連絡事項についても、その日のうちに返答をしていると評価しています。しかしながら保護者の方とは送迎時の限られた時間の中で園の様子をお伝えしたり、日々の活動内容の配信についても、個々のお子さんの内容ではなく、クラス全体としての活動を配信しているため「うちの子は今日どうだったんだろう」と思われることもあると思います。できるだけ日々の様子の詳細もお伝えできるよう努めながら、個別の相談などいつでもお受けできるように保護者の方にも周知してまいります。

今後も園全体の課題に真摯に向き合いながら、子どもたち・保護者の皆様・地域の方々にとってよりよい保育園となるよう努めてまいりたいと思います。「共に育ち 学び合う」というモットーを掲げ、子どもの育ちだけでなく、そこで働く私たちも保育者としての成長につながる学びを大切し、全職員で協力しながら引き続き皆様に信頼される園を目指してまいります。

園長 浅川 善彦